

●医療事故は年々増加

日本の医療事故情報の年間報告件数は、2005年以降、毎年増加傾向で、昨年の報告件数は4,532件でした。(公益財団法人日本医療機能評価機構 医療事故情報収集等事業2019年年報より)

1999年1月には、肺の手術をする患者と心臓の手術をする患者を取り違えたために、それぞれ目的以外の手術が行われるという医療事故が起こり、国民に衝撃を与えました。また、医療事故には至らなかったものの、危険を感じて「ヒヤリ」とした事例は約94万件(同年報より)でこちらも増加傾向です。その内容としては、約30%が「患者間違え」でした。

●原因は「患者間違え」

例えば、患者確認する場面で「〇〇さんですね。」と問いかけ

シリーズ 第153話

医療事故を防止するために
お名前と生年月日の確認にご協力を

をすると、患者さんは聞こえていなくても、間違っている「はい。」と答えることがあります。その要因としては、病院内はさまざまな音であふれていて、名前を聞き取りにくかったり、早く自分の名前が呼ばれたという思いがあり、聞き間違えを起こしやすくなるためです。高齢者の場合は難聴が要因になることもあります。また、姓名は同じでも漢字が違ったり、字体や読みが類似する姓などもあり、患者間違えの一因となります。そのため、患者誤認事故防止の積極的な取り組みが重要となります。

●当院の取り組み

主に次の2つの取り組みを実施しています。

①院内放送

午前と午後「患者誤認防止のためお名前の確認をさせていただきます。」と院内放送を入れています。来院された際に耳にした方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

②患者確認

患者さんにはお名前(姓名)と生年月日など、2つ以上のもの患者確認をさせていただきます、患者誤認防止に院内全職員で取り組んでいます。

診療科や検査部門などさまざまな部署で、患者さん本人にフルネームを名乗っていただき、同姓同名の方もいるため生年月日も確認するようにしています。入院患者さんであれば名前入りのリストバンドを装着しているので、患者さんに名乗っていただき、リス

市民病院
副院長兼医療
安全対策部長
横井 佳博
監修

▽市民病院(代表) TEL 22・2171

ID 751376216

トバンドやベッドネームと一致しているか確認しています。もし、ご自分で名乗れない場合には、ご家族に名乗っていただくようにしています。何度も名乗っていただき煩わしいかもしれませんが、医療事故を防止するためにご協力をお願いします。

患者さまへお願い

ご本人様確認の為
お名前とお誕生日
をお伺いします。



図：当院の院内掲示ポスター